

# 自立支援局だより

第28号 2015. 9発行

## 平成27年度 体 育 祭 開催される

平成27年6月5日（金）、当センター陸上競技場において、利用者、職員、学生などを合わせて総勢700名以上が参加して、国立障害者リハビリテーションセンター体育祭が開催されました。

毎年体育祭の開催は、梅雨入りの時期のため、雨で中止となることもしばしばあり、今年も週の初めは降水確率が50パーセントと、なかなか高確率でしたが、前日は快晴で気温も高く、明日本番の気温が心配されたところでした。

当日は曇り空で、雨が降ることもなく、気温もじっとしていると肌寒く感じるほどで、運動をするには丁度良い日となり、熱中症を心配していた関係者一同ホッとしたところでした。



(大玉送り)



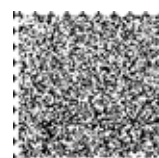
(綱引き)

予定どおり、9時30分に開始。午前中は開会式の後、全員参加による大玉送りやスラローム、ストラックアウト+アキュラシー、パン食い競争などの8つの種目が行われました。午後は昼食をはさんで、綱引き、リレーなどの4つの種目が行われました。

午前の開始早々は、白組がダブルスコアの大差をつけた時もありましたが、後半は紅組もじわじわと点を重ね20点ほどの差で午前の競技が終了しました。

お昼休みを挟んで、午後の最初の競技である綱引きで白組が勝利し、その勢いのままリレー競技も白組が優位に進めることとなり、結果は、白組が優勝（白402点、紅379点）しました。

プログラムは12種目と数こそ少ないですが、利用者の皆さんの障害種別に合わせて進行するため、競技ごとに多職種の方々の様々なサポートがみられるのも当センターの体育祭の



特徴と言えます。例えば、視覚に障害のある方には伴走する人、声や音で誘導する人、外まきに見守る人。歩行が困難な方や車いすの方には、転倒に備えてすぐりカバリーできるようにバックアップする人。聴覚に障害のある方には手話によるサポート。これらの直接的なサポート以外にも、間接的サポートとして、健康状態を観察して適切なアドバイスで指導をする人等、細やかなサポートにより競技がスムーズに進行できるように図られています。

同じ種目でありながら、競技参加者によってスタートからゴールに至るまでの過程はさまざまであり、まるで映画の一場面を見ているように印象的な瞬間があり、当事者はもちろん応援する側も自然と一緒に競技に熱中してしまいます。その中でも、スラローム競技は、電動車いすの鮮やかな操作テクニックが一際目を引いていました。

ここでいくつか、当センターならではの競技について紹介させていただきます。

### （スラローム）

車いすを使用して、赤白のピンにより設置された 24 の各旗門を、白は前進、赤は後退により各旗門を通過し、早さを競います。（公式戦では、電動車いすは時速 6 k m の制限があります）

### （ストラックアウト+アキュラシー）

〈ストラックアウト〉

9つの数字パネルにボールを当て、倒したパネル数の合計が多いチームが勝利。

1チーム4人で、3分以内に12球を投げ終えるようにします。

〈アキュラシー〉

円形のアキュラシーゴールにディスクを通過させ、通過したディスク数が多いチームが勝利。

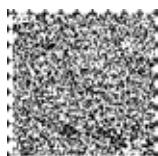
1チーム4人で、3分以内に12枚を投げ終えるようにします。



（ストラックアウト）



（アキュラシー）



自立訓練部では5月27日（水）に「相模湖プレジャーフォレスト」（相模原市緑区）にて野外訓練を実施しました。昨年度と一昨年度は雨天のため、センター内でバーベキューとレクリエーションを実施していましたが、今年度は天候にも恵まれ、絶好のバーベキュー日和となりました。当日は、利用者35名、職員37名、実習生1名が総勢73名参加し、バス3台で現地に向かいました。昼食は5～6名のグループでテーブルを囲み、バーベキューで野菜や肉、焼きそばをお腹いっぱいになるまで堪能しました。昼食後は職員が企画したレクリエーションを実施しました。暑い中での野外訓練でしたが、通常の訓練とは違った環境の中で一日を過ごし、普段顔を合わせる機会の少ない利用者や職員同士が交流し、楽しい1日を過ごすことができました。



## 野外訓練の感想

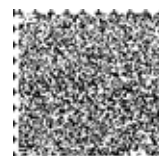
生活訓練課 村田 将也

当日は、天候に恵まれてウキウキしながら、集合場所の多目的ルームに行きました。そしたら、利用者の人も待ちどうしかったみたいで皆、早めに集合していました。しばらくして、出発する時間が近くなり、皆それぞれのバスに乗りこみました。そして出発の時待機職員が手を振ってお見送りしてくれました。

バスの中で和気あいあいと話しながら、揺られること1時間半位で目的地の相模湖プレジャーフォレストに到着し、昼食までの自由時間でピカソの卵という迷路やゴーカートに乗って、利用者さんと職員さんとで一緒になって楽しみました。楽しい時間は、あっというまに時間がすぎ、待望のバーベキューの時間が始まりました。バーベキューは食べ放題でそれぞれが好きなようにバーベキューを楽しみ、お腹もいっぱいになったところに、全員参加のゲームが始まりました。その名も、「五感で感じろ」です。ルールは、目隠しをして何かを叩いて、音だけで当てるゲームです、結構音だけで当てるのは、難しく、かなり盛り上がりました。楽しかった時間は、早くすぎました。



感想を書ってくれた村田さん（写真右手）。  
ゴーカートにチャレンジ！



しばらくの間、リハビリばかりだったのでいい気分転換になりました。あと、利用者さんと職員さんが前より仲良くなれたような気がします。



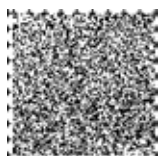
バーベキュー食べ放題！お肉・野菜・焼きそばなど。  
お腹いっぱいになりました。



みんなでバーベキューを楽しみました。



五感で感じるゲーム！ さわって、におって、きいて、何かわかるかな？



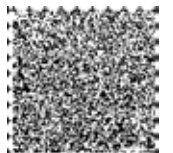
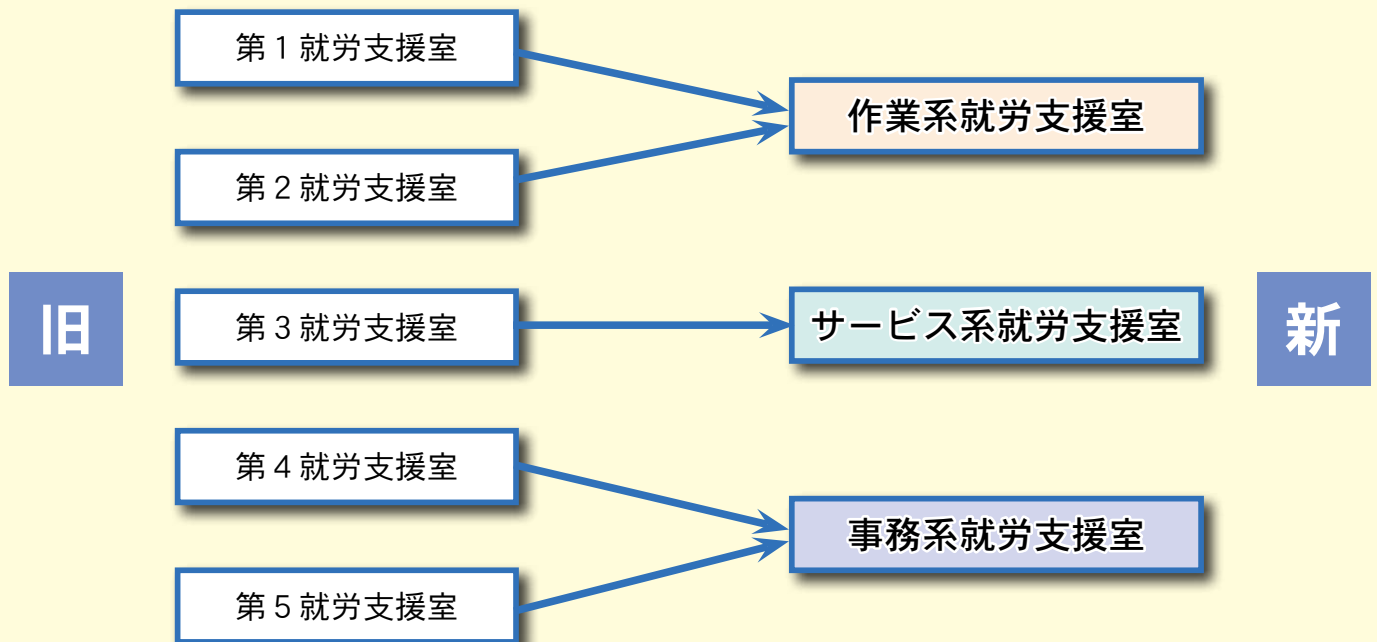
# 就労支援室の名称変更と訓練紹介！

## ♪ 就労支援室の名称変更

就労移行支援では、主に働く力をつけるための様々な支援を行っていますが、この度、平成27年4月から就労移行支援室の名称が変わりましたのでご紹介します。

これまでは第1～5就労支援室という5つの場所に区切った呼び方でしたが、作業系就労支援室、サービス系就労支援室、事務系就労支援室の3つの呼び方になりました（図1）。中味は、少し変更になった部分もありますが、ほぼ従来通りです。次に、作業系、サービス系、事務系のそれぞれの就労支援室の訓練の概要についてご紹介します。利用者の皆様は、スタッフと一緒に自分に合った就職について考え、目標の実現に向けて頑張っています。

図1) 就労支援室の名称の変更（旧→新）



## 作業系就労支援室

### ◎内容

当センターの各部署から仕事の依頼を請けて行っています。主に、当センター発行誌（パンフレット、リーフレットなど）の発送用封筒作り（ゴム印押し、封筒の一部を切る、宛名ラベル貼り）や資料の封入・封緘作業とセンター事務消耗品の物品管理の作業です。もの作りとしては、ネームプレートや看板などの製作や簡易組立などの作業を行っています。仕事の請け方、お客様との対応の仕方、作業計画の立て方、効率的な作業の進め方などを学んでいきます。

その他、実習として、当センターの研修会の受付や販売、農作業の体験を行っています。

### ◎特徴

実際の仕事を通して、利用者自身が責任者となり、皆が力を合わせて作業を行っています。さらに、社会人としての基本的な心がまえとチームワークなどを個々の状況にあわせて段階的に身につけます。



写1) 今日の作業の確認



写2) リーフレットの誤植の修正

## サービス系就労支援室

### ◎内容

主に、隣接する病院の白衣上下、シーツ、タオルなどを仕上げてお届けしています。集荷、ポケットチェック、洗濯機械操作、プレス機械やアイロンがけによる仕上げ作業、完成品の仕分け、袋詰め、届けなどの実践的な訓練を行っています。

### ◎特徴

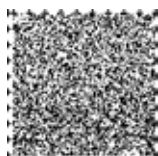
実際のクリーニング工場と同じ環境を通して、仕事で必要な力を体得し、併せて体力面、技能面の向上を目指します。個々の状況にあわせて少しずつ段階的に身につけます。



写3) 布団カバーのプレス仕上げ(左)  
白衣のプレス仕上げ(右)



写4) アイロン仕上げと仕分け作業



## 事務系就労支援室

### ◎内容

キーボード操作、インターネットなど基本的なパソコンの使い方から始まり、伝票チェック、データエントリ、文章入力訓練などの実務を想定した基本的な事務の訓練を行います。さらに、検定試験対策などの訓練と並行して、当センターの各部署から仕事を受注し、実践的なスキルアップを図っています。

### ◎特徴

パソコンに触れた経験のない方から、就労経験のある方の転職や復職のサポートまで、個々のスキルと目標に応じた事務訓練を幅広く行っています。



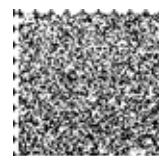
写5) 入力文書の誤字脱字チェック



写6) 模擬職場の職場体験プログラム

## 就労移行支援について

就労移行支援では、さらに、国語、算数、社会常識等の学力向上を目指した支援を行います。また、就職活動の支援として就職相談、職場開拓、就職セミナーを実施したり、障害者の就職面接会への参加なども行います。さらに、就職後の支援として会社訪問や来所相談等を行っています。



# 臨床医学各論

理療教育・就労支援部 理療教育課

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師を志す人は、患者さんを治療する上で必要な病気の知識を学びます。その中でも「臨床医学各論」は、現代医学の系統別疾患の診断及び治療に関する基礎的知識について学習し、適切な施術を行う能力を養うための科目です。臨床医学から、感染症、消化器疾患、肝・胆・膵疾患、呼吸器疾患、腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、リウマチ性疾患・膠原病など幅広い範囲を学びます。今まで学習した、解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論、理療臨床医学各論などの現代医学的な基礎的知識が必要になります。

授業内容は、疾患名、概念、病態、症状、検査方法、治療および予後と項目が多く、豊富な知識が必要となります。しかしながら、患者さんを目の前にすると教科書をただ覚えただけの知識では、太刀打ちできません。そのため、病態把握や患者さんの体験談を紹介することで、臨床の知識に活用できるように工夫しています。また、指導上気をつけている

点として、検査や治療法などは日進月歩で進化するため、教科書の情報が必ずしも新しいものではありません。正しい情報を教授するために最新の情報を取り入れるように努力しています。

病気を学習するときには、身体の正常な状態の知識が必要になります。そのため、利用者の方々は、解剖学や生理学の知識などを復習して授業に臨んでいます。また、授業が進むにつれて、知人や家族の病気のことや自分の病気など、病気を身近に感じることで、より熱心に取り組まれるようになります。

知識は施術者のためだけでなく、患者さんのためにもなります。病気の知識を増やすことで、あん摩マッサージ指圧、鍼灸治療の限界を見極めることは、施術対象でない患者様に、適切な治療を受けるための医療機関への受診を勧めることにも繋がります。

(文責 米田裕和)

## 利用者募集のご案内

自立訓練（機能訓練）視覚障害

自立訓練（機能訓練）頸髄損傷

就労移行支援

自立訓練（生活訓練）高次脳機能障害

就労移行支援（養成施設）

<問い合わせ先> 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 総合相談課  
〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

TEL：04-2995-3100（代表）

FAX：04-2995-4525（直通）

E-mail：soudan@rehab.go.jp

